

全学院教職員礼拝

愛のある知性を。

大学一般教育部教授 松本 周

天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。

マタイによる福音書 13 章 44 節

説教題である「愛のある知性を。」は宮城学院女子大学の研究教育姿勢を表したタグラインです。そしてこのタグラインは建学の精神を語り直している言葉であるという点において、大学だけでなく中学校高等学校にもこども園にも通ずる精神であると思います。タグライン制定時にも今日の聖書箇所からの語りかけを大学礼拝で聞きましたが、今回改めて教職員礼拝でも共にこの語りかけを聞きたいと願いました。

この聖書箇所は、神が私たち一人ひとりへ見出している価値について語っています。最初に「天の国」とあります。これは一般的にイメージされる天国のことではありません。聖書で言う「天の国」とは、神の思い、神さまの論理が実現している場所を指します。「天の国は次のようにたとえられている」というのは、神がこのように私たち一人ひとりをそして世界を見ているといった意味になります。宝を発見した人にたとえられているのが神であり、宝が隠されている畑とは私たち一人ひとりを指しています。

畑の価値というのは、一般的には何によって評価されるでしょうか？畑ですから、どれだけの作物を収穫できるのか？ということが評価の基準になります。つまり、それぞれの畑は、利用価値によって評価されます。たくさん収穫を得ることができる畑は良い畑、せっかく種を蒔いても収穫が少ない畑は出来の悪い畑ということになります。それが畑に対する一般的な評価基準です。

けれども今日の聖書箇所が伝える大切な点は、神が私たち一人ひとりに見ている価値は利用価値ではないということです。多くの人が畑を利用価値によって判定するように、神は私たちを利用価値によって判定はしない。どれだけ力があるか、どれだけ強いのか、どれだけ多才であるか、どれだけ賢いかといったことは神が一人ひとりを見る時の究極的な価値基準ではないのだと言われています。

では神は私たちへどのようなまなざしを向けているのでしょうか。神は、私という畑の中に隠されている宝があることを知っているお方だと聖書は語ります。他の人はその宝に気づかないので、あなたのことを何の変哲もない、平凡な畑だと思っている。また自分自身でもその宝に気づいていないので、自分でも何の取り得もない、あるいは

周囲と比較して自分はできの悪い存在だと時には思い込んでしまっている。そのような私たちに向かって聖書は語りかけています。あなたは大切な宝の存在だ。かけがえない宝石をあなたは持っているのだ、と。

あなたはあなたとして、かけがえない宝の存在だ。聖書そしてキリスト教はこの価値観を基盤としています。そして今日の聖書箇所において、宝を発見した人は「喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、それを買う」と記されています。このたとえ話を語っているイエスさま自身の姿を表しています。イエス・キリストの十字架に込められた真理が語られています。私たち一人ひとりの存在をかけがえない宝として喜び、宝である一人ひとりの存在と引き換えてイエスさまは自分の命を十字架に差し出されました。そこまでの出来事を通してあなたという宝が見出されたのだ。聖書の語る愛の姿が示されています。

宮城学院はこのイエス・キリストの愛を土台として設立された学校です。私たち一人ひとりが宮城学院へ集められたという事実は、自分の意識や自覚を越えて、神が一人ひとりをかけがえない尊い宝として見出されたという事実に他なりません。畑の中に隠されていた宝、岩の中に埋まっていた宝ということは宝石の原石として存在していたということです。まだ輝き出す前の原石であったから、宝であることに気づけなかったのかもしれない。

ここに集う一人ひとりが宝として見出されました。宮城学院において、礼拝を通して原石である一人ひとりが磨き上げられていきます。原石が宝石本来の輝きを放つためには磨かれなければなりません。自分一人で自分を磨くことはできません。ダイヤモンドを磨くには何が必要でしょうか。ダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨けません。ダイヤモンドは最も硬いので、他の物質でダイヤモンドを磨くことはできません。

同じように人間は人間によって磨かれます。私たちは互いに磨き合って、互いにいっそう輝いていきます。教職員相互に、また学生・生徒と教職員で、そして学生・生徒同士で、まさしく切磋琢磨して輝きを増していく。「愛のある知性」がそこに輝き出します。

祈祷

父なる神さま、あなたは私たちに命を与えるために、独り子を十字架へと送られました。私たちがイエス・キリストに根差し、与えられた命をしっかりと成長させていくことが出来ますように。礼拝を通し、宮城学院での日々において「福音主義キリスト教に基づいて学校教育を行い、神を畏れ敬い、自由かつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重」する生き方へと導いてください。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

(2025年6月18日)